

# 浜通りの今をめぐる見学会開催 7月24日(水)

**FIC**  
第1回

福島県インテリアコーディネーター協会 主催  
**浜通りの今をめぐる見学会**

2024年  
**7月24日 水** 10:30-16:00

FIC会員：1,000円 一般：2,000円  
(申込料・会場料・昼食代別添付、別途案内。両方なくお取り合います。)

2024年度の第1回目の活動として「浜通りの今をめぐる見学会」を開催いたします。  
第1部は、「大阪・関西万博の大屋根を支える大断面集成材とは」(株)ウッドコア様  
「第1部」の工場見学です。大断面集成材の製造工程や、その加工・使用されている  
「第2部」の「フィンランドのライフスタイル暮らしを豊かにするデザイン」展の見学です。  
見学会は、いわき市立美術館で開催されている「フィンランドのライフスタイル  
暮らしを豊かにするデザイン」展の見学です。この見学会では、フィンランドの  
独自のデザイン、ライフスタイル、家具のデザインなど、フィンランドのデザイン  
について詳しく学び、毎日開催されている「暮らしを豊かにするデザイン」  
展の見学も合わせて行います。会場は、いわき市立美術館です。多くの関係者のご参  
迎を歓迎いたします。お問い合わせは、お問い合わせ先までご連絡ください。

**第1部**  
10:30～11:30  
「大阪・関西万博の大屋根を支える大断面集成材とは」  
大断面集成材の製造工程や、その加工・使用されている  
工場見学を通して「木」の可能性をお見聞いただけます。  
会場：株式会社ウッドコア  
福島県郡山市大町1-1-1

**第2部**  
14:00～16:00  
「フィンランドのライフスタイル暮らしを豊かにするデザイン」  
フィンランドの独自のデザイン、ライフスタイル、家具のデザインなど、  
フィンランドのデザインについて詳しく学び、毎日開催されている「  
暮らしを豊かにするデザイン」展の見学も合わせて行います。  
会場：いわき市立美術館  
いわき市立美術館 郡山市立美術館内

**お申込み**  
7/9(金)申込開始  
7/17(水)申込締め

福島県インテリアコーディネーター協会  
FAX: 024-966-2944  
mail: kabuto@09320301@nifty.com



FIC今年度の第1回目の活動は、大阪・関西万博の大屋根を支える大断面集成材を製作している(株)ウッドコア様の工場見学と、いわき市立美術館で開催されている「フィンランドのライフスタイル暮らしを豊かにするデザイン」展の見学でした。福島、郡山、いわき方面からそれぞれ車で道の駅なみえに集合。郡山から約2時間弱、走ったことのない道を走り皆さんと合流できました。参加人数は16名。いわき支部企画の皆さんお世話になりました。

## 第1部 株式会社ウッドコア様見学



## 福島高度集成材製造センター FLAM

FUKUSIMA ADVANCED MANUFACTURING CENTER FOR LAMINATED



広い敷地の工場を案内して下さった産管理部長の阿部孝紀様ありがとうございました。



木端、切削クズはエネルギー利用され SDGSへ貢献しています。

ヘルメットもチャームिंगな皆さん

東日本大震災、原子力災害によって失われた浜通り地域の産業を回復するため、産業基盤の構築を目指すプロジェクト福島イノベーション・コースト構想があります。その中の農林水産業分野におけるプロジェクトとして福島県産木材の需要を拡大し林業の再生を目的に、非住宅向けの、都市のビルで使われるような、中大断面集成材を中心とした集成材を製造する施設「福島高度集成材製造センター」が建設されました。広い敷地に国内でも最大規模の工場、国産材を中心とした原木から一貫生産されています。地場産業の復興と木材利用による脱炭素社会の実現へも貢献しています。場所も内容もスケールの大きい見学会になりました。

第2部 いわき市立美術館 「フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン」展見学



浪江町から移動していわき市立美術館へ。  
「フィンランドのライフスタイル」展見学の前にいわき市立美術館学芸員徳永祐樹様による展示会の概要についてセミナーを聴講しました。



今も愛される曲木の<スツール 60>アルヴァ・アアルト



カラフルなテキスタイル



石本藤雄氏のレリーフ<陶の花>



オイバ・トイッカ<バード>



<シエッポ>



生活スタイルに適した、シンプルで機能的なモダニズムの合理性を追求しながらもフィンランドの自然に親しむ文化を取り込み、ひとによりそうデザインを目指す。日本人の四季を感じ自然素材を暮らしに取り入れてきた文化と共通するものを感じます。それが時代を超えて愛されるゆえんなのかなと思いました。